

獨逸道路交通法

人及車輛ノ道路交通許可令 (三)

多 田 基

第三十五條

車軸ノ位置

(一) 一車軸又ハ相互ニ聯結セル二車軸ノ二車軸間ノ距離ハ、コノ車軸ニ許可サレタル軸壓ノ合計ノ各一噸ニ付、
クトモ〇・三米トナスベシ。

(二) 二車軸以上ヲ有スル車輛又ハ列車ノ(各)二車軸間ノ距離ヲ狹メル時ハ、許可軸壓ガ夫レ夫レ六噸ヲ超過セズ。
又接續車軸ノ距離ガ不足額ノ半分丈大ナル場合ニ限ル、併シ乍ラ、夫レ夫レ五・五噸ヨリ精々六噸迄ノ軸壓ヲ有スル接續二車軸間ノ距離ハ、尠クトモ一・四米トナスベシ。相互ニ連續スル四車軸ノ各二車軸間ニ、コノ狹イ間隔ガアル場合

二個ノ中間車軸間ノ距離ハ不足額ノ合計ノ半分丈擴大ス。

(三) 無限軌道車輛(第三十四條第四項)ハ、第一動輪ト最終動輪トノ間ノ車道ニ對シ各一米ニ付四噸ノ負擔ヲ與ヘルコトヲ得ルモノトス。連續シテ進ム二對ノ無限帶又ハ一車軸及一對ノ無限帶(重量ガ配分サレ、前方負荷面ノ中心ト後方負荷面ノ中心トノ間ノ縱ノ距離ガ尠クトモ三米ニ達スルトキハ、負擔ハ各一米ニ付六噸ニ及ブコトヲ得ルモノトス。列車ノ場合、二對ノ無限帶ノ間ノ距離又ハ一對ノ無限帶ト一車軸トノ間ノ距離ニハ第一項及第二項ノ規定ガ適用ス。前方負荷面ノ中心ト後方負荷面ノ中心トノ縱ノ距離ハ、車軸距離ト看做ス。

(四) 道路用輾壓機ニハ、車軸ノ位置ニ關スル本規定ヲ適用セズ。

第三十六條

タイヤー及走行面

(一) **タイヤー**ノ大キサ及構造ハ、運轉條件特ニ負擔及速度ニ適應セザルベカラズ。**タイヤー**又ハ其ノ他ノ走行面ハ、鋪裝車道ニ損傷ヲ與ヘル如キ凹凸ヲ持つベカラズ。鐵輪ノ縁ニハ丸味ヲ持タスベシ。釘ハ箆メ込ミトスベシ。所謂地面喰込ミ部分ハ出來ル丈ケ減ズルカ、或ヒハ他ノ手段(例ヘバ安全**タイヤー**)ニ依リテ損傷ヲ除クベシ。

(二) 自動車及附隨車ノ車輪ニハ、後述ノ如キ他ノ**タイヤー**ガ許可セラレザル限り、**空氣タイヤー**ヲ裝置スベシ。**タイヤー**ノ活動能力ガ、管ノ中ニ高壓力ヲ密閉シタル**空氣**内容ニ依リ決定スルモノハ、**空氣タイヤー**トナス。

(三) **空氣タイヤー**ノ代リニ、時速二五軒迄ノ速力ヲ有スル車輛ニ對シテハ(併シ乍ラ、最高速度ガ僅カ十六軒迄ノ自動車ニシテ、發條ツキ動軸(Triebachse)ナキモノニ對

シテモ)以下ノ要求ヲ充タス**ゴムタイヤー**ガ許可セラル。**タイヤー**ノ兩縁ニハ、一〇軒幅員ノ突出セル明瞭ナ肋脈ヲ印シ、**タイヤー**磨損ノ限度ヲ明示スベシ。コノ肋脈ヲ中斷スルモノハ、製作者名、大キサノ明示、其ノ他ノ表示並ニ**タイヤー**ノ無地ニ限ルモノトス。**タイヤー**ハ、磨損限度ニ於イテモ尙尠クトモ六米疋ノ活動能力ヲ所有スベシ。**タイヤー**ノ表面壓迫ハ、靜態ノ許可限度負擔ニ於イテ、一平方糎ニ付六米疋ヲ超過スベカラズ。**タイヤー**ノ肋脈ト鐵環(鋼鐵箍)ノ間ニハ、兩側ニ「6 mkg」ノ文字ヲ掲載スベシ。單又ハ複**タイヤー**車輪ノ**ゴムタイヤー**ノ壓迫ガ、既ニ靜態ノ許可限度負擔ニ一〇〇疋ノ過重負擔ヲ加ヘル際、次ノ方式ヲ計算スル最低額ヲ增加スルナラバ、六米疋ノ活動能力ハ依然トシテ存在スルモノトス。

$$f = \frac{6000}{p + 500}$$

コノ方式中ノ f ハ一軒ニ於ケル壓迫増加ノ最低量ヲ意味シ、 p ハ一疋ニ於ケル許可限度ノ靜態的負擔ヲ意味ス。最

高限度ノ靜態的負擔ハ、**タイヤ**ノ接地幅員一糎ニ付一〇
〇疋ヲ超過スベカラズ。表面壓迫ハ、許可限度ノ靜態的負
擔ノ下ニ於イテ、走行面ノ無地ニ留意スルコトナク調査ス
ベシ。

(四) 輪ノ幅員一糎ニ付一二五疋迄ノ表面壓力ヲ有スル
鐵輪以下ノ車輛ニ許可セラル。

(a) 農業用及林業用牽引車ニシテ、ソレノ全重量ガ
四噸ヲ過超セズ、其ノ最高速度ガ時速八杆ヲ超過セ
ザルモノ

(b) 高最速度ガ時速八杆ヲ超過セザル作業機械及之
ニ依リテ曳行セラル、車輛

(c) 時速八杆迄ノ速度ヲ有スル牽引車ニ後續スル
一、家具運搬車

二、式場又ハ滯在地ト近接停車場トノ間、或ヒハ式
場ト近接セル滯在地トノ間ノミヲ往復スル住居用

車輛及興行者用車輛

三、建設地ノ往復運輸ニ使用スルモ、同時ニ貨物輸

送ニハ餘リ使用セラレザル建設勞働者ノ宿泊用車
輛

四、道路建設及道路維持ニ使用セラルル運轉可能ノ
用具及建設地ノ往復運輸ニ用ヒラルル機械

五、農業用工作車輛及林業用必需品、工作具又
ハ生産物輸送ニ用ヒラルル車輛

(五) 無限軌道車輛(第三十四條第四項)ノ連鎖帶ハ車
道ニ損傷ヲ與ヘル喰ヒ込ミヲ持つベカラズ。接地板及ソレ
ノ肋脈ノ縁ハ圓味ヲツケルベシ。連鎖帶ノ縦面ニ於ケル金
屬性接地板及肋脈ノ圓味ハ、鈔クトモ六〇耗ノ半徑ヲ有セ
ザルベカラズ。動輪ヲ通ジテ連鎖帶ノ負荷面ガ平面道ニ與
ヘル壓迫ハ、一平方糎ニ付一五疋ヲ超過スベカラズ。負荷
面トハ、實際ニ於イテ平面車道ニ負擔ヲ與ヘル連鎖帶ノ其
ノ部分ノミヲ云フ。無限軌道車輛及無限軌道車輛ヲ併フ列
車ニ對スル走行面及發條ノ性質ニ關シテハ、次ノ制限ガ課
セラル。

(a) 速度ハ一般ニ時速八杆トス

(b) 連鎖帶ノ動輪ニ四耗ノ高サノゴムタイヤヲ裝

置スルカ、又ハ連鎖帶ノ負荷面ニゴム襪ヲ有スル場

合ハ、速度ハ時速一六軒トス

負荷面ニゴム襪ノ裝置ガアルカ又ハ動輪ニ四纏ノ高サノ
ゴムタイヤノ裝置ガアルカ又ハ特別ニ發條裝置ガアル場
合ハ速度ハ制限セズ。

第三十七條

雪鎖 (Schneeketten)

スリップ・チェーンノ取付ケ及取外シハ簡單トナスベシ。

自動自轉車ハ別トシ、スリップ・チェーン・タイヤノ全
走行面ノ梯子形ニ且ツ網狀ニ包ミ、離脱スベカラズ。スリ

ップ・チェーンノ弛ルミハ除去スベシ。又、緊付ハ常ニ行
ハザルベカラズ。金屬性チェーンハ彈力性ヲ有スルタイヤ

ノトス。タイヤノ走行面ハ、振ヂタ又ハ交叉又シタ環ヲ持
ツベシ。而シテ銳利ナ縁、突出部又ハ特殊ナ突起ハ禁ズ。

環ノ長サハ五五耗トシ之以上ヲ超過スベカラズ。又厚サハ

三〇耗以上ヲ超過スベカラズ。

第三十八條

操縱裝置

操縱裝置ノ構造及操縱車輪ノ負擔ハ、車輛ノ全重量及最
高速度ニ應ジ、操縱ノ安全容易ヲ計ルベシ。車道故障及夕
イヤー破損ニ依リテ、技術ノ現狀トシテハ不可避以上ニ著
シク安全操縱ヲ侵ス如キ力及槓杆作用ヲ操縱部分ニ惹起ス
ベカラズ。操縱裝置諸部分ノ接合ハ、磨損ニヨル弛ミヲ排
除スベシ。螺旋接合ハ十分完全ニ行フベシ。

第三十九條

逆 行

自重三五〇斤以上ヲ有スル自動車ハ、運轉手坐席カラ逆
行運轉ヲナシ得ルモノトスベシ。

第四十條

遮風ガラストガラス拭

(一) 自動車ノ遮風ガラス及運轉方向ト斜ニ自動車ノ内
部ニ裝置セルガラス板ハ、安全ガラスニ依リテ製作スベシ。

安全ガラストハ、其ノ破片が大傷害ヲ與ヘザルガラス（又ハガラス類似ノ材料）ヲ云フ。

(二) 遮風ガラスニハ自動操作ノガラス拭ヲ裝置スベシ。ガラス拭ノ活動範圍ハ車輛運轉手ニ十分ナル視野ヲ提供スルヲ以テ適當トス。

第四十一條

制動器（ブレーキ）

(一) 自動車ニハ二個ノ獨立セル制動器又ハ二個ノ獨立セル操作裝置ヲ有スル一個ノ制動器ヲ設置シ、夫レ夫レノ裝置ハ、他ノ裝置ガ不能トナリタル場合ニ作用シ得ルモノトナスベシ。獨立セル操作裝置ハ、分離セル傳導器ヲ通シテ、同一ノ制動鼓輪ノ中又ハ上ニアル相異ナル制動面ニ作用セザルベカラズ。二個以上ノ車輪ニブレーキヲ掛ケ得ル場合ハ、共通制動面及（全部又ハ部分的）共通ノ傳導裝置ヲ使用シ得ルモノトス。併シ乍ラ、之等ノモノハ、部分的破損ニ當リテモ尙鈔クトモ同一側ニアラザルニ車輪ヲ制動シ得ルヤウ構造スベシ。全制動面ハ、必ず車輪ト結合セル

不分離ノ部分ヲ形成スベシ。制動面ノ一部分ハ、直接ニ車輪ニ作用スル力又ハ鎖或ヒハ齒輪ヲ介セズ車輪ト結合セル構成部分ニ作用スベシ。制動器ノ調整ハ容易ニナシ得ルカ又ハ自動的調整裝置ヲ備フベシ。

(二) 自動自轉車ハ別トシテ、自動車ニ於イテハ一制動器（常用ブレーキ）ニ依リテ鈔クトモ次ノ平均減速度ヲ得ベシ。

(a) 最高速度ガ時速二〇杆ヲ超過セザル場合ハ、 1.5 m/sek^2 (米/秒²)

(b) 最高速度ガ時速一〇〇杆ヲ超過セザル場合ハ、 2.5 m/sek^2

(c) 最高速度ガ時速一〇〇杆ヲ超過スル場合ハ、 3.5 m/sek^2

(三) 自動自轉車ハ別トシテ自動車ニ於イテハ、他ノ制動器ノ操作裝置ハ、サイド・ブレーキ (Feststellbremse) トナスベシ。此ノサイド・ブレーキハ機械的ニ作用シ、發動機ノ制動器作用ノ助ケヲ用セスシテ、車輛ノ通過スル最大勾

配ニ於イテ轉落ヲ防止シ得ルモノトスベシ。サイド・ブレーキニ依リテ、鈔クトモ次ノ平均的減速度ヲ得ベシ。

(a) 最高速度ガ時速二〇籽ヲ超過セザル場合、 1 m/sek^2

(b) 最高速度ガ時速二〇籽ヲ超過セル場合、 1.5 m/sek^2

(四) 自動自轉車(側車ヲ伴フトモ)ニ於イテハ、兩制動器ノ夫レ夫レニ依リテ鈔クトモ 2.5 m/sek^2 ノ平均的減速度ヲ得ベシ。

(五) 蓄電池ノ力ニ依リテ運轉セララル自動車ニ於イテハ、兩制動器裝置ノ内、一ハ、電氣抵抗又ハ短絡制動器(Kurzschlussbremse)トナシ得ルモノトス。コノ場合、第一項ノ最後カラ二番目ノ規定及第二項ハ適用セズ。併シ乍ラ、カカル車輛ニ於イテハ、機械的サイド・ブレーキニ依リ鈔クトモ 2.5 m/sek^2 ノ平均的減速度ヲ得ザルベカラズ。或ヒハ車輛ノ速度ガ時速二〇籽以上ナラザル場合ハ、鈔クトモ 1.5 m/sek^2 ノ平均減速度ヲ取得スベシ。

(六) 二軸及二軸以上ノ附隨車ハ、完全ナル調整シ易キ制動器裝置ヲ備フベシ。制動器ハサイド・ブレーキトスベシ。而シテ附隨車ニ貨物ヲ滿載セル時、百分ノ二〇ノ分配ヲ有スル乾燥道路上ニ於イテ轉落ヲ防止シ得ルモノトナスベシ。自動的ニ又ハ牽引車軸ニ操作セラルル附隨車制動器ハ、附隨車ガ牽引車軸ヨリ離脱セルトキ、附隨車ヲ自動的ニ停車セシムベシ。時速二〇籽以上ノ速度ヲ有スル車輛ニ

後續スル附隨車ハ、牽引車輛ノ制動器ノ傳導裝置ニ依ツテ協動スル制動器裝置ヲ備フベシ。本裝置ニヨリテ鈔クトモ自ラ 2.5 m/sek^2 ノ平均的制動器減速度ヲ得ベキモノトス。時速二〇籽ノ最高速度ヲ有スル自動車ノ背後ニ附隨車ヲ用ヒルトキハ、附隨車ハ自ラ 1.5 m/sek^2 平均的減速度ヲ得ベキモノトス。併シ乍ラ、之ハ特ニ標示スルヲ要ス。(第五十八條參照) 此ノ附隨車ノ制動器ガ牽引車輛ノ運轉手ニ依リテ操作セラレズ、又自動的ニモ作用セザル場合ハ、車道ヲ十分見透シ得ベキ制動手ガ附隨車ヲ操作スベシ。五・五噸以上ノ全重量ヲ有スル附隨車並ニ時速二〇籽以上ノ速度

フ有スル自動車ニ後續スル附隨車ニハ、フット・ブレイキ (Anlaufbremse) ガ許可セラルモ、該構造ハベルリン市ニ於ケル「獨逸自動車及自動車部分品型式試験所」 (Reichsstelle für Typprüfung von Kraftfahrzeugen und Kraftfahrzeugteilen) ノ認可ヲ要ス。列車中ニハ、フット・ブレイキヲ裝置スル附隨車ハ一臺ノミ附隨シ得ラルモノトス。フット・ブレイキヲ有スル附隨車ハ、其ノ背後ニ附隨車ヲ伴フ爲ノ連結器ヲ裝置スベカラズ。

(七) 單軸附隨車ガ、牽引車輛ニ依リテ制動シ得ラレル場合ハ、其レ自體ノ制動器ヲ必要トセズ。一車輛ノ車轍ヲ殘スコトナク、鈔クトモ第二項ニ規定セル平均的減速度ノ得ラレル場合ニハ、牽引車輛ニ依ル制動ニテ足リルモノトス。單軸附隨車ガ、其レ自體ノ制動器ヲ有スル場合ハ、又此ノ減速度ヲ得ザルベカラズ。

(八) 第二項ヨリ第七項ニ規定サレタル制動器減速度ハ平坦ナ乾燥道路ニ於イテ普通ノ力ノ消費ニ依リテ滿載車輛即チ制動鼓輪ヲ加熱セル場合並ニ(第三項ニ規定セル制動

器ハ別トシテ) 最高速度ノ場合ニ於イテモ、車轍ヲ印スルコトナク之ヲ得ザルベカラズ。平均減速度ハ、最終速度及制動器作用ノ初メカラ車輛ノ停車ニ至ル迄ニ進行スル距離ヨリ計算スベキモノトス。

(九) 第三十六條第四項ニ示セル車輛ハ、制動器ニ關スル規定ヲ適用セズ。併シ乍ラ、該車輛ハ、運轉中操作シ易ク且ツ確定的ナル完全ナ制動器ヲ裝置スベシ。第三十六條第四項 a 及 b 以下ニ示シタル自動車ニ牽引サレル農林業用作業機械ハ、運轉中ニ作業ヲナシ得ルモノニ限り(例ヘバ耕作機、條播機、刈入レ機) 制動器ヲ裝置スルニ及バズ。

第四十二條

附隨車ノ全重量

自動自轉車及乗用自動車ノ車臺ヲ有スル自動車ノ背後ニ附隨車ヲ伴フ時ハ、牽引車輛ガ全車輪制動器ヲ有シ、附隨車ノ重量ガ牽引車輛ノ許可全重量ノ百分ノ四〇ヲ超過セザル場合ニ限ル。公認専門家ノ鑑定ニ基ツキ重量比率ハ百分ノ六〇迄増加セシメタルコトヲ得。其ノ場合、自動車證ニハ

「附隨車許可全重量……」ト記載スベシ。

第四十三條

連結裝置

(一) 一噸又ハ之以上ノ許可荷重ヲ有スル貨物自動車ニハ附隨車連結ノ裝置ヲ施スベシ。

(二) 一噸又ハ之以上ノ許可荷重ヲ有スル貨物自動車ニハ、前部ニ曳行索又ハ曳行棒ヲ固定セシメルニ十分適當ナル裝置ヲ施スベシ。

(三) 連結裝置、又曳行索ハ、牽引車ト牽引セラルル車

輛トノ内法^{カチウ}ノ距離ガ五米以上ニ及バザルヤウ裝置スベシ。

二・七五米以上ノ距離ニ於イテハ、連結裝置ハ、例ヘバ赤色布片ニ依リテ明示スレバ足ル。

第四十四條

附隨車曳行ノ標識

貨物自動車並ニ區切りセル運轉手室ヲ有スル牽引車ガ、附隨車ヲ伴フ時ハ、車輛ノ中央ニアル運轉手室ノ上ニ三角形ノ黃色標識ヲ掲グベシ。三角形ノ邊ノ長サハ十八糎トシ

一角ハ上方ニ向ケテ黒地ニ描キ、暗夜ト雖モ普通ノ視力ニ

ヨリ、尠クトモ百米ノ距離ヨリ其ノ形體ガ明白ニ認知セラ
ルルヤウナスベシ。燈光ハ、運轉手坐席ヨリ直接ニ（展望
窓ヨリ）又ハ他ノ方法ニ依リテ注視シ得ラルルヤウナスベ
シ。附隨車ヲ伴ハザルトキハ、標識ハ除クベシ。車輛ガ一
定ノ行政官廳又ハ企業ニ所屬セルコトヲ明示スル爲ニ、三
角形ノ中ニ獨逸交通大臣ノ許可セル符號ヲ記入スベシ。

第四十五條

燃料容器

(一) 燃料容器ハ、腐蝕セザルヤウ製作スベシ。而シテ
二倍ノ常用壓力ガ加ハルトキハ、尠クトモ〇・三高氣壓ノ
場合ニハ、密度ノ試験ヲ行フベシ。鑲接セル容器ハ、白鐵
ノ熔ケタル時ニ於イテモ密著ヲ保ツベシ。高壓力又ハ常用
壓力ヲ超過スル壓力ガ生ズル場合ハ、適當ナル裝置（開孔、
安全弁等ニ依リ）ニテ自動的ニ調節スベシ。容器ノ最深部
ニハ放出裝置ヲ具フベシ。注入栓ハ、充填ヲ——直接容器
ニ依リテモ——行ヒ得ルヤウ又車道ノ左側ヲ車輛ガ走行セ

ザルヤウ設置スベシ。排氣孔ニハ、火焰ノ進入ヲ防止スベシ。容器ノ鐵接部分ハ、同時ニ銜留又ハ螺旋ニテ緊メ付ケルベシ。燃料ハ、車輛ノ傾斜、屈曲地點ノ走行又ハ衝突ノ際ニ於イテモ、閉鎖栓又ハ高壓力調節用装置ヨリ流出スベカラズ。

(二) 液體燃料用容器ノ収容量ハ、平坦道路ヲ鈔クトモ三五〇升走行スルコトヲ以ツテ標準トスベシ。本規定ハ、時速二〇升ノ最高速度ヲ有スル自動車、瓦斯發生器付自動車、高壓瓦斯運轉ノ自動車、三輪車輛及自動自轉車ニハ適用セズ。二五〇立方糎以上ノ衝程容積ヲ有スル自動自轉車ノ燃料容器ハ、鈔クトモ平坦道路一五〇升ノ走行距離ニ要スル収容量ヲ所有シ、不足ノ場合ニハ氣化器へ燃料補助量ガ送ラレルヤウ裝置スベシ。

第四十六條

燃料導管

(一) 燃料導管ハ、車輛ヲ振リタル場合、又ハ發動器ノ動搖及其ノ他ニ於イテモ、ソノ安定性ニ惡影響ヲ及バサザ

ルヤウ製作スベシ。

(二) 管接合ハ、鐵接セザル螺旋結合カ又ハ堅牢ニ鐵接セルニツベル(Nippel—接合管)ニ依リテ製作スベシ。燃料導管ニハ、運轉中、運轉手坐席ヨリ容易ニ操作シ得ル遮斷裝置ヲ設クベシ。發動機停止ノ際、燃料供給裝置ガ氣化器又ハ噴射ホムプ(Einspritzpumpe)ヘノ注入ヲ中止スル場合ハ、遮斷裝置ヲ設置スルニ及バズ。燃料導管トシテ接目ナキ、伸縮性アル金屬管又ハ燃料ニ對シ耐久性アル其ノ他ノ管ヲ用ヒルコトヲ得。但シ機械的損傷ノ安全ヲ計ルベシ。

(三) 燃料導管、氣化器、及其ノ他ノ燃料供給部分品ハ、運轉障害ヲ與ヘル熱度ニ對シテ安全ニシテ、滴下又ハ氣化燃料ガ凝集スルコトナク、又高熱部分及電氣裝置部分ニ於イテ點火セザルヤウ配置スベシ。

第四十七條

制音器ト排氣管

蒸氣及燃燒瓦斯ハ、遮斷セラレザル制音器(Schalldämpfer)ニ依リテ、自動車内部ノ誰人モ危害及苦痛ヲ受ケザ

ルヤウ送出スベシ。排氣管 (Auspuffrohr) ノ口ハ、車道又ハ右側ニ向ケルヲ得ズ。荷重一・五噸以上ノ貨物自動車ノ排氣管ハ、車輛ノ後端部近ク迄突出セシメルコトヲ得。但シ其ノ場合ハ、左側外方ニ向ケ水平ニ突出セシムベシ。排氣管ハ凡ソ車輛ノ側端ノ點ニ於テ切斷スベシ。

第四十八條

蒸氣罐ト瓦斯發生器

(一) 壓縮通過裝置及三五立^{リフト}迄ノ全容量ヲ有スル蛇管ヲ有スル蒸氣罐ノ自動車許可措置ハ本規定ニ從フモノトス。但シ蒸氣罐ノ許可又ハ検査ニ關シテハ他ノ規定ニ從フモノトス。

(二) 火花ノ噴出及燃料殘滓ノ落下ハ排除スベシ。車輛ノ可燃性部分ハ、運轉ニ依リ高度ノ加熱ニ對シテ安全トナスベシ。

第四十九條

走行騒音

(一) 走行騒音ハ八五音度 (Phon) ヲ超過スベカラズ。

騒音ハ、發動機ノ全負擔及時速四〇浬ノ速度ノ場合ニ(コ)ノ速度ニ達セザル場合ハ、最高速度ニ於テ(イ)計量スベシ。而モ車輛ノ中央線カラ七米ノ距離ヲ有スル車道ノ側面ニ於テ行フベシ。發動機ノ全負擔ハ、加速、制動、曳行車輛ノ隨伴又ハ之ト類似ノ方法ニ於テ、課セラレルモノトス。

(二) 排氣騒音が識別シ得ル標準的作用ヲ有スル場合、音度ハ停車並ニ最高運轉回數ニ際シテ排氣口ノ末端カラ其ノ延長二〇米ノ距離ニ於テハ五音度ヲ超過スベカラズ。

(三) 計量ハ、出來得ル限り平坦ナル地表ヲ有スル廣場ニ於テ無風ナル時ニ行フベシ。反響又ハ制音ニ依リテ妨害ヲ與ヘル障害物(喬木及灌木等)ハ、音響源カラ尠クトモ受音器ノ二倍ノ距離ヲ有セザルベカラズ。

(四) 第一項ヨリ第三項ニ至ル規定ハ、農林業用ノ牽引車、鐵輪ヲ有スル作業機械(第三十六條第四項 a 及 b 參照)並ニ負荷面ニゴム裝置ナキ無限軌道車輛ニハ適用セズ。(第三十六條第五項參照)